

【資料2】

平成21年度 佐賀県立佐賀商業高等学校（定時制） 学校評価結果

1 学校教育目標	
生徒の個性や能力を大切に、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、他人に対する思いやりや人間尊重の精神を涵養し、社会の発展に寄与しうる人材を育成する。	
2 学校経営ビジョン	
(1) 基本的な生活習慣を身に付け、生き方や在り方を考え、地域社会に貢献できる人材を育成する。 (2) 興味関心を喚起する授業実践と生徒理解に努め、進路希望を実現させる。 (3) 地域・保護者と連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。	
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 授業の充実 (2) 欠席や欠課時数の減少 (3) 喫食率の向上と食育推進	<p>学校運営について―「学校経営方針」については生徒・教職員へは周知できたが保護者への周知は十分ではなかった。周知機会を増やす必要がある。「教職員の資質向上」については長期休業中の校外研修受講を推進していく必要がある。「開かれた学校づくり」については学校開放や地域や関係機関との連携は目標達成がなされたが、家庭や中学校への情報発信が不十分であった。</p> <p>教育活動について―「学力向上」については生徒の学力差が大きいこともあり、年度末の各教科の評価にかなりの差がみられた。「わかる授業」の展開をさらに推進していく必要がある。「健康・体づくり」については給食の喫食率をほぼ80%まで上げることができた。「生徒指導」については交通安全意識の向上がなされ、事故の発生を減少させることができた。しかし、高校生らしい頭髪・服装指導は不十分であった。「進路指導」については引き続き進路先決定100%を目指して根気強く指導していく必要がある。「保健指導」については各種健康診断を全員の生徒に受診させることができた。</p>

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校 運営	○学校経営方針	・本年度重点目標の周知	・教職員・生徒・保護者に周知する。 ・認知率75%以上を目指す。	B 生徒・教職員には周知できた。しかし、保護者への周知は努力はしているが、依然不十分であった。	・職員会議・職員連絡会や全校集会で説明する。 ・保護者に対し後援会総会・三者懇談会で説明する。 ・保護者に対し学校便りを学期毎に配布し周知する。 ・学校ホームページに掲載し、広く周知を図る。	・後援会総会の出席者は少ないが、三者面談時に周知・説明が来ている。 ・平日の後援会総会の保護者出席は厳しいと思われるので土曜日の開催に変更しても良いではないか。 ・後援会総会等の出席率を上げるため、また、重点目標の周知のための方策を具体的に考える必要がある。
	○教職員の資質向上	・社会の変化に対応した教育の実践	・校内研修を年に3回以上実施する。 ・校外研修を少なくとも1回は全教職員が受講する。	A 全定合同の研修会を含めて3回以上の研修会を実施できた。 B 若手の教職員については教育センターの講座を受講させることが出来た。	・教職員の綱紀粛正や特別支援教育・心の教育等の今日的な教育諸課題について校内研修を計画する。 ・県教育委員会主催の各種研修会や教育センターの講座について教職員へ周知し受講を勧めていく。 ・各教科の学習指導要領講習会への参加を義務付ける。	・特別支援教育や人権同和教育の校内研修が実施されて、大変良かった。教育センターの進路指導主事研修や教育相談研修に積極的に参加できた。 ・日常の業務や生徒指導に忙殺されて研修の時間が取れないのが現状。 ・教育センターの講座受講を勧められ参加したところ、とても勉強になった。 ・教育センターでの研修を受講することが出来た。
	○開かれた学校づくり	・家庭や中学校への学校の情報発信	・学校の教育活動についての認知率を70%以上にする。	B 家庭へは学校だより・学校ホームページ・EDQスクールニュースそして月1回発行の保健だより・給食室だより等で程度情報発信は出来ていると思われる。しかし、中学校への情報発信は不十分であった。	・積極的に学校ホームページ・EDQスクールニュースの閲覧活用を勧め、また、学校便り配布により学校の教育活動を周知する。 ・後援会総会への保護者の出席率を向上させる。	・ホームページ、EDQスクールニュースを見る保護者はほとんどいないのが現状。紙媒体がいいと思う。 ・学校だより等は早めに生徒に配布し保護者に渡すよう指導したが、徹底できたかは不明。
	○開かれた学校づくり	・学校開放	・1つ以上の公開講座を実施する。 ・保護者・中学校の先生対象の公開授業を実施する。	B 常に授業は公開しており、中学校教員・保護者・生徒の参観があったが、中学校への働きかけを積極的にには行わなかった。	・中国語入門聴講講座を実施する。 ・後援会総会や三者面談時に公開授業を実施する。また、中学校から学校訪問を積極的に進めていく。	・中国語入門公開講座を本校の特色としてもっとPRしてもらいたい。 ・中学校や中学生とその保護者による学校訪問や授業参観は年間通して行われた。 ・授業は公開されていると思う。
	○開かれた学校づくり	・地域や関係機関との連携	・学校評議員との連携を深める。 ・地域の有識者や関係機関との連携を深める。	B 定時制の現状については各学校評議員に理解していただいた。地域の有識者による講演会は実施できなかった。	・学校評議員会における各評議員からいただいた意見・要望を吟味し、積極的に学校運営に反映する。 ・地域の有識者や関連機関に講演や講習会の講師を依頼していく。	・学校評議員会では本校定時制の現状・生徒の特色等について理解していただき、温かい助言をいただいた。 ・有識者や関連機関の方々による講演会を開催することが出来なかった。次年度は開催に努力したい。
	教育 活動	●学力向上	・授業全般	・授業の始業時間の厳守	A 授業の始業時間の厳守はほぼ実施できた。	・生徒・教職員による達成度調査の実施。
●学力向上		・履修・修得100%を目指す。	・履修・修得100%を目指す。	B 教員の日々の努力により各教科・科目の履修・修得割合は増加しているが、まだまだ100%にはほど遠い。	・授業欠席の多い生徒に対し面談を繰り返す。 ・家庭との連絡連携を緊密にする。	・授業の欠席が多い生徒への面談や保護者への連絡も緊密にするように努めたが、郵送による一方通行終わる場合も少なからずあった。 ・授業欠席の多い生徒に対する面談や指導は頻繁に行われていた。 ・依然として遅刻・欠席が目立つ。担任中心に生徒への指導は繰り返されているが保護者の理解が不十分なものもあり、まだまだ目標達成にはほど遠いのが現状である。 ・生徒だけでなく家庭にも連絡し、協力体制をとられていた。欠席の多い生徒への指導、家庭への連絡は担任の先生方が根気強く行っていた。
教育 活動	●学力向上	・教科指導	・わかる授業の展開	A 長期休業中や始業前に個別指導を実施し、理解不十分の生徒のフォローを行った。	・理解できなかった生徒に対して個別指導を行う。	・職員室で自主的に始業前に個別指導を受ける生徒が増えてきた。(複数) ・個別指導を求める生徒がすでに数名いる。教員と生徒の信頼関係を築く上でとてもいいことだと思う。 ・理解力が乏しい生徒については、夏季休業中に補習授業を実施してきた。
	●学力向上	・授業時間を80%以上確保する。	・授業時間を80%以上確保する。	A 月別授業実施時間数の調査を行い、目標の80%以上をクリアした。	・月別授業実施時間数の調査を実施。	・月別授業実施時間数の調査により、成績簿の出欠チェックが出来て良かった。 ・授業時数については科目にもよるが以前に比べると15%ぐらいい増加した科目もあるように、授業時間を確保できた。 ・教科の年間授業時間は平均で1単位あたり28.5時間であり、教科科目によっては実施時間が少ないものもあるが、全体では目標の80%をクリアしている。
教育 活動	●学力向上	・教科指導	・指導方法の創意工夫	B 年間指導計画と評価基準は作成・実施されているが研究授業・合評会は実施できなかった。	・年間指導計画と評価基準の作成及びその実施。 ・研究授業及び合評会の実施。 ・校外への授業参観や研修の機会を設ける。	・各教科で創意工夫がなされているが、それを有機的に結びつけたい。 ・各教科とも生徒に応じた指導方法を工夫されていた。 ・年間指導計画を作成し授業に取り組んでいるが生徒の学力や生徒の生活への密着度を考えることと計画通り行かないことが多くあった。 ・学力が伸びる生徒が出てきた反面、学力が一向に着かない生徒が一定数居て、指導の難しさを感じる。
	●心の教育	・心の健康づくり	・「心の健康」に関する意識を高める。	B ホームルームでの取り組みはある程度実施できているが、全校集会では人権・同和教育の講話(本校職員による)のみであった。	・命の大切さや思いやりの大切さをテーマにしたホームルームや全校集会を実施する。	・日々の授業やSHRで教科担当や担任から命の大切さや思いやりの大切さを話していただいているが、係としては全校集会での取り組みが不十分であった。人権同和教育担当者による映画会の取り組みは良かったと思います。 ・心に問題を抱えた生徒が多い中、よく指導できていたと思う。 ・専門家による講話を実施してみてもどうか。 ・自己中心的な生徒を変えることは難しい。

教育活動	●心の教育	・教育相談体制の充実	・不登校の生徒やクラスになじめない生徒への支援を充実させる。	A	いじめについてのアンケート調査やほぼ月1回の生徒情報交換会が実施でき、生徒の支援体制は出来ていた。	・悩みについてのアンケートを年2回実施し、悩みのある生徒については積極的に教育相談を受けさせる。 ・毎日の職員連絡会や月一回実施予定の生徒情報交換会を通じて生徒に関する情報の共有化を図り、困っている生徒に対し迅速に対応できる体制づくりを行う。	・担任・養護の先生を中心に細かく指導・支援ができています。 ・いじめに関するアンケートを作成されていた。また、必要性を感じた生徒にはスクールカウンセラーとの面談を勧めた。 ・5月に心理検査(PUPIL)、10月にいじめアンケート(このごろのほく・わたし)を実施し悩みのある生徒の把握に努めた。また、月1回の生徒情報交換会により生徒情報の共有化が図れたと思う。 ・保護者との連携が必要である。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・給食の喫食率80%以上を目指す。 ・朝食の喫食率30%以上を目指す。	A	月1回の給食室だよりの発行や食育健康講話が実施できた。	・毎月「給食室だより(いちご)」を発行して食育指導を推進する。 ・年1回LHRで食育健康講話を実施する。	・喫食率は例年になく高く感じた。 ・食育健康講話は大変良かった。給食室だよりや保健だよりを生徒に読ませる時間を作れなかった。 ・給食の喫食率(75%)、及び朝食摂取率(22%)はほぼ目標を達成できた。食育健康講話を充実させ、意識の向上を図りたい。 ・給食だより・保健だよりを定期的に発行することが出来た。しかし、喫食率75%と目標の80%以上を達成することが出来なかった。(気候や給食時間帯等によって喫食率にばらつきあり) ・朝食を食べるようにするには基本的な生活習慣の確立が必要だと感じる。 ・朝食を食べるか否かは家庭の問題。合格者登校日・後援会総会・三者面談等で朝食の重要性を訴えたい。 ・担任としては給食室だよりや保健だよりを生徒に読ませる時間を作れなかった。 ・毎月、給食だよりと保健だよりは発行していたが、内容を統一したりテーマを合わせたりという連携ができてなかったため、食育健康講話も生活習慣アンケートを取る段階での内容の検証の必要性を感じた。 ・全体的にも個人的にも粘り強い指導が出来ていたと思う。
	○生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	・欠席・遅刻・早退の数を減らす。 ・休学・退学者数を減らす。	A	欠席・遅刻・早退や休学・退学者数は以前と比較して減少した。	・該当する生徒に対し、何回も話し合う場を設け、また、保護者・雇用主とも連携を図り規則的な生活の確立を目指す。 ・いろいろな場面において退学は将来の生活設計に大きな支障をもたらすことを認識させていく。	・朝食を食べるようには基本的な生活習慣の確立が必要だと感じる。 ・朝食を食べるか否かは家庭の問題。合格者登校日・後援会総会・三者面談等で朝食の重要性を訴えたい。 ・担任としては給食室だよりや保健だよりを生徒に読ませる時間を作れなかった。 ・毎月、給食だよりと保健だよりは発行していたが、内容を統一したりテーマを合わせたりという連携ができてなかったため、食育健康講話も生活習慣アンケートを取る段階での内容の検証の必要性を感じた。 ・全体的にも個人的にも粘り強い指導が出来ていたと思う。 ・担任・副担任の先生はとでも根気強く働きかけて欠席・遅刻・早退を減らすことに努められていたと思う。 ・全校集会や授業で生徒に話す機会が数多く持たれたと思います。ただすべての生徒に徹底するにはまだ難しいところがあると思います。 ・退学者は現在3名で驚異的な数字。退学者数が激減したのは教職員特に担任の指導によるところが大きい。 ・特定の生徒の欠席・遅刻・早退の数を減らすことが出来なかった。
	○生徒指導	・生徒指導方針の確認と指導体制の推進	・保護者の学校への関心を高める。	B	生徒指導方針等を保護者へ伝える機会が少なく、関心を高めることが不十分であった。	・合格者登校日・入学式・後援会総会・三者面談・学校だより・学級通信等を利用して学校の指導方針を保護者へ伝える。	・特に担任の先生方が保護者との連絡を頻繁に取られていた。 ・入学式等で学校の指導方針を話されていた。 ・生徒指導担当の指導により茶髪は目立たなくなりました。また、学校の指導方針は保護者にも十分伝わっていると思います。 ・保護者への啓発はとでも重要だが問題生徒の保護者の意識・関心が極めて低いのが問題。
	○生徒指導	・交通安全意識の向上	・事故発生件数を5件以内にすることを目標とする。	B	点検等は計画通り実施できたが事故発生件数を5件以内出来なかった。	・自転車点検を年2回実施し、特にライトが点灯するか、ブレーキが効くか・慎重に点検する。 ・バイク・自動車の点検については専門業者に依頼する。 ・警察の協力を得て交通安全教室を開催する。	・自動車通学の生徒への指導が難しい。・免許取りたてでの事故が続いた。 ・自転車点検を細かいところまで点検されていた。また、バイクのエンジン音が大きい生徒については各先生が指導されていた。 ・4年生のクラスで事故が多かったので大変反省しています。 ・点検や安全教室は実施したが事故発生件数が5件以上となり目標を達成できなかった。安全運転についての根気強い指導が必要である。
	○生徒指導	・自律的精神の涵養	・髪の色・ピアスをさせない。	B	髪の色生徒は見あたらないが、化粧・ピアスの生徒への指導が徹底できなかった。	・髪の色は黒く染め直させ、ピアスはその場で外させる。 ・根気強く時間をかけて指導していく。	・粘り強く、厳しく指導した。染色の指導はうまくいっている。 各先生より根気強く呼びかけられてたが、ピアスを外さない生徒がいた。 ・ひどい茶髪の生徒は居なくなりました。ピアスについても同様です。 ・ほとんどの生徒が素直に指導に従う。教職員全体での指導が不可欠。
	○進路指導	・個々の生徒の適性に合った進路指導の充実	・就労体制の支援及び助言を徹底して行う。 ・正式雇用就職率を向上させる。	B	進路に関する講演会や講話を実施できなかった。	・就労状況調査を年3回実施する。 ・ハローワークや事業所との連携を強化する。 ・講演会や講話を実施し望ましい勤労観・職業観を持たせる。 ・就職希望者が積極的に就職試験に挑戦するよう指導を充実させる。	・3・4年担任の先生(進路担当)がかなり努力されていた。社会状況が厳しいので就職率を上げるのはかなり難しい。 ・履歴書の書き方、面接指導など、個別に丁寧に指導されていたと思う。 ・就職希望者との連絡を頻繁に取られていたと思います。 ・アルバイト調査(就労状況調査)を年2回しか実施しませんでした。卒業予定者に対しては必要に応じて面談を行いました。ハローワークとの連携に努めたが、事業所との連携は生徒の受験希望先にとどまった。 ・卒業生を活用して講話を実施してみてもどうか。身近な存在なので真剣に聴くと思う。
	○進路指導	・生徒の希望する職業につながる進路指導を充実させる。		B	具体的な方策はすべて実施できたが、結果的に生徒の進路希望を実現させることが出来なかった。	・進学希望者に対し、進学に関する新しい情報を常に提供できるように工夫する。 ・低学年から個別指導を実施し目標達成のための学力養成を図る。 ・進学につながる資格取得のための特別補習授業を実施する。	・3・4年担任・教科担任の先生方が皆、生徒のニーズに応じて熱心に指導されていた。 ・進学についての情報は常に提供されていたように感じた。また進学・資格取得ため補習も多くされていた。 ・廊下に進学資料を準備しつつでも閲覧出来るようにした。低学年の生徒については担任からきめ細かい指導をしていただいた。 ・簿記の検定指導を商業科担当者に年間を通して実施してもらい全商一級合格者を出すことが出来た。 ・基礎学力の充実は学校側の課題。進学に在る学費は保護者側の問題。両者のバランスがとれて初めて進学が実現する。
	○保健指導	・健康の保持増進	・各種健康診断の100%受診を達成する。 ・麻しん接種100%を達成する。	A	各種健康診断の受診は100%を達成し、また、日々の保健指導も着実に実施できた。	・月1回発行の「保健だより」や担任との緊密な連携により生徒への指導・連絡を徹底する。 ・麻しん接種該当生徒に対し担任と協力して個々に指導を行っていく。	・学校管理の各種健康診断は目標達成できたが本人及び保護者の意識が低く、経済的負担も加わる予防接種は今後さらなる意識の喚起が必要である。 ・養護の先生が熱心に粘り強く指導されていた。 健康診断は100%受診を達成できた(休学者は除く)。麻しん予防接種がなかなか進まず、工夫や呼びかけが不足していた。 ・保健だより発行はとでも意義あること。時には全校集会等で養護教諭より話してもらいたい。

6	総合評価
<p>平成21年度の各校務分掌について振り返ってみると、教務関係では授業時数の確保、授業時間の厳守等について目標をクリア出来、また、退学生徒数も激減させることが出来た(10名から4名に減少)。しかし、依然として欠席・遅刻・早退の多い生徒が各学年複数いたため、年度末に未履修科目を多数出すことになった。生徒指導面では1年間の特別指導件数も減少し(2件)、茶髪等の違反もない。しかし軽度であるが交通事故が増加(10件)したことは来年度の指導課題である。進路指導面ではハローワーク・生徒アルバイト先・全日の進路指導部等との連携を頻繁に行い、また、生徒の意識変革・面接指導に努力したが、社会不況の影響で結果的に多くの卒業生を正規就業に就かせることが出来なかった。教育相談や保健指導(食育を含む)の面では目標をほぼ達成することが出来た。学校からの各方面への情報発信は不十分であった。</p> <p>全般的に現在、教職員の地道な教育活動により生徒は卒業や進路実現に向けて落ち着いて学校生活を送っている。引き続き多様な問題を抱える生徒の指導に定時制の教職員全体で対応していく予定である。</p>	

7	来年度の改善策
<p>教務面では引き続き担任と協力して未履修・未修得科目を減らすために、特定の生徒とその保護者に対する欠席・遅刻・早退の減少の働きかけに努めること。生徒指導面では今年度増加した交通事故件数を減少させるため交通安全教育を再度徹底すること。進路指導面では生徒の正規就業意識の高揚と就職活動の支援・指導に努め、生徒の希望進路実現を果たしていくこと。保健指導面では引き続き規則正しい生活の定着を図っていき、その中でも朝食の摂取・歯磨き習慣の定着(学校歯科医師会病院からの指摘)を重点に指導を行っていく予定である。保護者や学校評議員・関係中学校への定時制からの情報発信にも力を入れていきたいと考えている。</p>	